

登録コード	L2961500	開講年度	2026				
担当教員	新津 健一郎			副担当			
授業科目	地誌・地域研究						
英文授業名	Area Studies and Geography						
授業タイトル	東アジアの地誌と歴史学的地域研究						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・3時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力				地誌・地域研究の学史及び基本的な特徴・手法を理解するとともに、地理に関わるテーマについて必要なデータを収集し、整理・分析することによって、新たな認識を構築することができるようになる。		
	【2022年度以前加付対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力				地誌・地域研究の手法を基礎として、特定の地域に関する課題を見出し、データに基づいて客観的に分析することができるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				地誌・地域研究の学史及び基本的な特徴・手法を理解し、説明することができるようになる。		
	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】				地誌・地域研究の方法論に基づいて必要なデータについて、収集・整理及び分析を行い、その結果を的確に表現することができるようになる。		
【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】	地誌・地域研究の手法についての理解を基礎として、特定の地域に関する課題を見出し、データに基づいて分析することができるようになる。						
授業で学べる「テーマ」	地域運営、芸術文化、環境共生、防災減災						
全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース						
授業の概要	「地方創生」「地域課題」「地政（学）」など、「地」という字を含む用語は様々ありますが、特定の「地」すなわち現実の空間を対象として、その風土や環境、政治・社会・文化的特徴など地理的諸要素を取り扱う学術領域を、地誌・地域研究と呼びます。 本授業では、地誌記述及び地域研究の手法と実践について、東アジアをフィールドとして学んでいきます。漢字圏では、特定の土地の性質や風土に関心を向け、それらを記述する営みが古くから積み重ねられてきました。たとえば「地理」とは、早くは『易経（周易）』に見える熟語であり、また伝統的に「（地）方志」「一統志」などの地理書の編纂も行われてきました。現在の地誌記述及び地域研究は、そうした学術史の蓄積の上に位置しています。これを踏まえ、地誌・地域研究の展開と到達点を理解するとともに、その手法を身につけ、実践することによって、特定の土地や地域にかかわる諸課題を問い直すこと——換言すれば「地」に関するリテラシーを高めることを目指します。						
授業計画	第01回 ガイダンス 第02回 「俯して以て地理を察す」/地誌記述と地域研究の歴史 第03回 地理書の誕生 第04回 地方志編纂の伝統 第05回 地図と地誌 第06回 地域区分論 第07回 中間まとめ/成績評価課題（レポート）の説明 第08回 「地の科学」/地誌記述と地域研究の手法 第09回 食文化：『荊楚歳時記』を手掛かりに 第10回 生業と物産：『南方草木状』を手掛かりに 第11回 民族：『雲南志』を手掛かりに 第12回 水利と物流：『水経注』を手掛かりに 第13回 人物：『華陽国志』を手掛かりに 第14回 景観と災害：四川涼山の「地震碑林」を手掛かりに 第15回 まとめ、授業アンケート 前半は地誌・地域研究にかかわる学史を順に講じます。後半は、授業担当者が専門とする中国の地理書・地方志などを手掛かりとして、地誌記述及び地域研究の実例を検討していきます。講義形式の授業ですが、内容理解の深化を図るため、授業中に簡単なペアワーク等を行う可能性もあります。なお、原則として対面で実施しますが、降雪や台風による交通の混乱、感染症の蔓延などが懸念される場合には、緊急避難的にオンデマンド/オンライン形式に切り替える可能性があります（eALPSで連絡します）。						
成績評価の方法	1）授業ノートとコメント[40%].....授業内容の理解度を確認するため、指定の回（複数）について内容を文章化して要約し、コメントとあわせて提出することを課します。どの回を対象とするか、また生成AIの使用ルールについては授業内で説明します。成果は下記の基準に沿って点数化し、その積み重ねを40点分に換算します。 2）レポート[60%].....授業内容を踏まえて、地誌・地域研究の手法の理解度及び実践力を評価するための課題を設けます。第09～第14回のテーマから一つを選択し、東アジア地域またはその周辺（日本国外						

成績評価の方法	）に任意の行先を設定して、架空の「フィールドトリップ」（見学旅行）を計画するとともに、各種ツール・データを用いて「実際に行ったつもり」で踏査記を執筆するものとします（中間提出「踏査計画」20点+学期末「踏査記」40点、計60点分）。授業の中で、課題の詳細及び成績評価基準を踏まえたルーブリックを提示します。 以上に基づき、素点100点満点で評価します。
成績評価の基準	地誌・地域研究の基本的な手法をおおむね正確に理解することができていれば、「合格水準にある」といえる。 地誌・地域研究の基本的な手法をおおむね正確に理解し、具体的な事例やデータに即して説明することができていれば、「やや上にある」といえる。 地誌・地域研究の基本的な手法を正確に理解し、具体的な事例やデータについて妥当な分析を展開することができていれば、「かなり上にある」といえる。 地誌・地域研究の基本的な手法を正確に理解し、妥当な分析を展開するとともに、地図などを用いて的確に表現することができていれば、「卓越している」といえる。
事前事後学習の内容	（事前学習） ・シラバス（参考文献含む）を熟読し、事前に確認すべき用語、事項などを把握しておくこと。 ・「次回の内容」（場合によっては、事前学習のための具体的課題）は授業内でも指示する予定であるので、それも踏まえて基本的な地名、用語、事項などを予習しておくこと。具体的課題を指示された場合は、それに取り組むこと。 （事後学習） ・授業で学んだ内容を整理し、図や文章でまとめておくこと。授業ノートとコメントの提出を指示された場合は、所定の作業を期日までにを行うこと。 ・授業で学んだ内容に基づき、図書館に足を運び、参考文献を利用して理解を深めること。 ・学期末のレポートに向けて、授業で学んだ内容を応用するとともに、自身の問題意識に即して作業を進めること。
履修上の注意	・特別な前提知識や経験（高校での地理履修、東洋史概論の履修等）を必要とするものではありませんが、授業の中では中国の地理・歴史に関する話題を多く扱います。地名、用語、事項などについては都度事前学習のなかで確認してください。やや専門性の高い内容も扱うため、丁寧に事前事後学習に取り組むことが肝要となります。 ・課題の一部に地図の作成を含めます。日頃から地図ツール（地理院地図、Google Mapなど）の使用や白地図への書き込み作業に慣れておくことを強く推奨します。 ・出席については、「信州大学における授業の出席に関する要項」に沿って取り扱います。すべての回に出席することが基本です。「要項」に定める事由については学修の補充措置を取りますが、授業中の活動などは、その性質上、完全に補えないこともあります。補充の申し出及び打刻に関するトラブル（読み込みができない、等）への対応はガイダンスで説明しますので、指示に従ってください。 ・連絡事項の聞き落とし、eALPSの操作ミス、指示の見落としや誤認は（成績評価が下がるなど）自身の不利益につながることがあります。十分注意してください。事務連絡や課題のリマインドなどにはeALPSおよび大学メールアドレス（学籍番号@shinshu-u.~）を使用します。学期中は週に一回以上を目安として定期的に確認してください。 ・2026年には、松本市で東アジア文化都市事業が開催されています。授業以外の機会も利用して、能動的に知見を広げていくことを期待します。
質問、相談への対応	・授業内容に関する質問及び相談は、原則として授業の前後に受け付けることとしますが、コメントの中に質問を含めても構いません。なお、受講者全体にとって有益な意見や質問は、提出者名を伏せたうえで授業中に紹介する可能性があります。 ・電子メール（eALPS及び履修案内で確認できます）での質問や相談にも対応しますが、返信には時間を要する場合があるので、余裕をもって問い合わせてください。 ・電子メールでの問い合わせについては、不審なメールや迷惑メールに紛れることを防止するため、件名・宛名と差出人を明記するなど、書式に注意してください。 ・込み入った内容の相談などで面談を希望する場合は、まず電子メールで問い合わせてください。時間を設定し、対面 / zoomなどで対応します。
教科書	指定しない。ただし、手元に地図帳（ガイダンスで説明する。高等学校用のものでも可）を用意しておくことが望ましい。
参考書	（地図帳・データブック等） 『新詳高等地図』帝国書院、2025年。 『詳解現代地図』改訂版、山川出版社、2025年。 『世界国勢図会』第36版、矢野恒太記念会、2025年。 『地球の歩き方 D2・6・9・10・14・16・37』学研。 （参考図書） 市川捷護、市橋雄二『中国55の少数民族を訪ねて』KADOKAWA、2026年。 森和『山海経の妖怪たち』KADOKAWA、2026年。 小二田章編『地方史誌から世界を読む』勉誠社、2025年。 項青・田畑博子編『壮族の歴史と文化』勉誠社、2025年。 佐川徹ほか編『その空間を統治するのはだれか』ナカニシヤ出版、2025年。 大澤正昭『中国農書・農業史研究』汲古書院、2025年。 葛剣雄『中国人口発展史』三元社、2025年。 山泰幸・向井佑介編『東アジア災害人文学への招待』臨川書店、2025年。 中村慎一ほか『空間と環境の古代東アジア世界史』勉誠社、2025年。

参考書	小野寺淳、許衛東『シリーズ世界を知るための地誌学 中国』朝倉書店、2025年。 小野映介、佐藤善輝『地形環境史研究』古今書院、2024年。 井黒忍『黄土地帯の環境史』研文出版、2024年。 吉村武彦ほか編『天変地異と病』岩波書店、2024年。 湯澤規子ほか編『入門 食と農の人文学』ミネルヴァ書房、2024年。 小二田章編『地方史誌から世界史へ』勉誠社、2023年。 長坂康代『ベトナム首都ハノイの都市人類学』刀水書房、2023年。 中林史朗『完訳華陽国志』志学社、2023年。 長谷川直子編『今こそ学ぼう地理の基本』山川出版社、2023年。 上杉和央、小野映介『みわたす・つなげる地誌学』古今書院、2023年。 横山智ほか編『フィールドから地球を学ぶ』古今書院、2023年。 蜂屋邦夫『中国の水の物語：神話と歴史』法蔵館、2022年。 川島真『シリーズ地域研究のすすめ ようこそ中華世界へ』昭和堂、2022年。 小二田章ほか『書物のなかの近世国家：東アジア「一統志」の時代』勉誠出版、2021年。 加納靖之ほか『歴史のなかの地震・噴火』東京大学出版会、2021年。 奥野一生『自然地域学』竹林館、2021年。 菊地俊夫編『地の理の学び方』二宮書店、2021年。 森田喬ほか『地図の事典』朝倉書店、2021年。 岩間一弘『中国料理の世界史』慶應義塾大学出版会、2021年。 周永河『食卓の上の韓国史』慶應義塾大学出版会、2021年。 村岡倫『最古の世界地図を読む』法蔵館、2020年。 データブック入門編集委員会編『データが読めると世界はこんなにおもしろい』二宮書店、2020年。 中村裕一『訳注荊楚歳時記』汲古書院、2019年。 時枝稜・木村圭司『スマホとPCで見えるはじめてのGIS』古今書院、2019年。 石原潤『中国の市』ナカニシヤ出版、2019年。 山下清海『世界のチャイナタウンの形成と変容』明石書店、2019年。 愛知大学三遠南信地域連携研究センター『地域研究のための空間データ分析入門』古今書院、2019年。 荻野昌弘、李永祥編『中国雲南省少数民族から見える多元的世界』明石書店、2017年。 田畑久夫・金丸良子『中国横断山脈の少数民族』古今書院、2017年。 池谷和信編『狩猟採集民からみた地球環境史』東京大学出版会、2017年。 山川修治ほか『気候変動の事典』朝倉書店、2017年。 坂野徹編『帝国を調べる：植民地フィールドワークの科学史』勁草書房、2016年。 村松弘一『中国古代環境史の研究』汲古書院、2016年。 辰己勝・辰己眞知子『図説 世界の地誌』改訂版、古今書院、2016年。 宮本真二・野中健一編『自然と人間の環境史』海青社、2014年。 落合雪野編『国境と少数民族』めこん、2014年。 栗原悟『雲南の多様な世界』大修館書店、2011年。 宇野隆夫編『ユーラシア古代都市・集落の歴史空間を読む』勉誠出版、2010年。 池谷和信編『地球環境史からの問い』岩波書店、2009年。 若林幹夫『地図の想像力』河出書房新社、2009年。 水島司、柴山守編『地域研究のためのGIS』古今書院、2009年。 イーファー・トゥアン『トポフィリア：人間と環境』筑摩書房、2008年。 鶴間和幸編『黄河下流域の歴史と環境』東方書店、2007年。 原宗子『「農本」主義と「黄土」の発生』研文出版、2005年。 小林清市『中国博物学の世界』農山漁村文化協会、2003年。 上田信『トラが語る中国史』山川出版社、2002年。 ジョセフ・ニーダム『中国の科学と文明 6』思索社、1991年。 そのほか、授業の中で随時紹介。
------------	---